

津田寺の大般若法要（だいはんにゃほうよう）

毎年漁師町、津田町の夏祭りの日に合わせて開催されています。津田の町の古くからの風物詩となっています。津田寺の大般若法要の始まりは古く、200年以上前の江戸時代からとされています。法要当日、数名の僧侶が、1300年以上前に中国から伝わったとされる600巻の大般若経を僧侶の頭上まで高く上げ、パラパラとお経を蛇腹の様にめくりながら大きな声を張り上げて転読（てんどく）という方法でお経を唱えます。転読することにより僧侶は集まった檀家の皆様の「家内安全、無病息災、商売繁盛、海上安全」などを祈願するのがこの法要の大きな目的です。僧侶が転読している間中、お寺に集まった檀家の皆様は数メートルもある大きな数珠を回しながら、その功德を授かるのも面白い所です。現在大般若法要を行う寺院は数少なく、600巻の大般若経を所有するお寺も希少です。

※大般若経とは

大般若経は600巻のお経の集大成です。中国の三蔵法師が16年間の旅をしてインド（天竺）から中国へ持ち帰り、4年を費やしてサンスクリット語から中国の漢語へ翻訳されたとされています。今読まれているお経は三蔵法師さまが訳されたお経なのです。その旅のお話は西遊記として紹介されています。

※大般若法要とは

大般若法要とは、『大般若経』六百巻を転読（てんどく）することによって、『般若経』の空（くう）の教えを体得し、すべての苦厄（くやく）を消しきって、内外の怨敵（おんてき）を退散（たいさん）させ、人々の願いを祈念し幸福な生活にみちびいてゆくことを目的とした大法要です。



大般若法要の転読、（参考写真）